

議決事項

件名	提案理由	審議の状況	採決の次第
議案なし			

平成28年度第 10 回教育委員会定例会出席者

日時及び場所	出席者	
<p>平成29年1月12日（木）</p> <p>午後1時57分</p> <p>↓</p> <p>午後3時23分</p> <p>第2研修室</p>	<p>教育長 長濱 重光</p> <p>教育委員 野村 繼治</p> <p>教育委員 田原 正人</p> <p>教育委員 中谷 いつみ</p> <p>教育委員 葛迫 幸平</p>	<p>教育総務課長 池松 烈</p> <p>学校教育課長 下江 嘉誉</p> <p>社会教育課長 野嶋 正人</p>

会 議 要 旨

1 開 会

定刻、定足数に達しており、平成28年度第10回教育委員会定例会を開会した。

2 平成28年度第9回定例会会議録の承認

承認

3 議 事

議案なし

4 その他

なし

5 委員並びに教育長及び課長報告

6 閉 会

議事内容等

3 議 事	議案なし
4 その他	なし
5 委員並びに教育長及び課長報告	委員並びに教育長及び課長報告
教育長	委員並びに教育長及び課長の報告に入る。
野村委員	<p>1. 「青少年のための科学の祭典in垂水について」</p> <p>12月17日青少年のための科学の祭典in垂水に参加した。今年も盛大に開催された。第16回目だった。この祭典は、全国規模の計画で実施されていて、鹿児島県内では鹿児島市、いちき串木野市、日置市、そして垂水市だ。大変に意義のある素晴らしい催しであることを考えると、垂水市開催のために大変な努力をされた諸先輩方に深甚の気持ちで感謝致したいと思う。今年度は、基礎生物学の大隅良典先生がノーベル賞を受賞された。先生はその喜びとともに日本における基礎研究の現状を憂えて、若い研究者に繰り返し基礎研究の重要性を訴えておられた。</p> <p>まさに、この科学の祭典に参加していた数百名の児童生徒諸君のあの集中した目の輝き、驚きの顔、満面の笑顔を見ながら、この科学の祭典はやはり素晴らしい企画であるのだ、子供達にとって大きな底力を与えてくれる催しなのだ、子供達の将来に夢をはせながら一人静かに感動に浸っていた。垂水の子供達の将来を期待する。</p> <p>2. 「成人式について」</p> <p>1月5日成人式に参加した。新成人対象者数174名、内出席者数は140数名ではないかとのことだ。整然としたいい雰囲気で行った。全体的にいい式典であったと思う。</p> <p>4人の代表による「はたちの主張」もそれぞれ懸命な気持ちが込められた素晴らしい内容のものであった。残念であったのは、マイクのレベルが合わなかったのか、音声が聞き取れない部分があった。事前の調整をしっかりとやればよかったのと思われた。</p> <p>また、映像企画もここ数年工夫されているが、今年も新成人諸君に自分と仲間達との絆、そしてまた、いつも支えてくださる周りの大人達の温かい思いやり等、その連携のありがたさをしっかりと認識させたのではないかと思います。</p> <p>20年の感謝～あなたは誰に伝えますか～の式典タイトルも非常にいい表現であった。</p>

田原委員	<p>1. 「青少年のための科学の祭典in垂水について」 青少年のための科学の祭典in垂水は、年末の恒例行事として、いつものメンバーがいつものように集って、行事を盛り上げている。鹿大教育学部の理科のメンバー、若者達が入ってくるのはいいことだ。大隅教育事務所も加わって、子供達と一緒に実験や体験をさせておられたのが印象に残った。</p> <p>2. 「成人式について」 最近、素晴らしい成人式が行われていたが、今年は、ハンドマイクを持ち込んで行事を妨害する行為があったのはよくなかった。 成人代表のあいさつで、声がマイクに通らず、内容がはっきり聞き取れなかったのはもったいなかった。 ハンドマイクは隠し持って入場したと思うが、入場前に必要ないものは持ち込まない等の注意はできないものか。 冊子は、表紙の写真や構成、装丁等、素晴らしくすごくいいものが出ていた。</p>
中谷委員	<p>1. 「家庭教育学級について」 12月16日柁原小の家庭教育学級によばれて、地域住民3人で絵本の読み聞かせをした。親子での参加で全員出席。子供達はとても喜んでくれて、楽しい会になった。</p> <p>2. 「民生委員活動について」 12月24日民生委員で新城、柁原地区のひとり暮らしのお年寄りにそばを準備して宅配した。1軒1軒のお年寄りとおしゃべりも大事な仕事だ。</p> <p>3. 「子供会について」 12月25日子供会をした。この1年間子供達が頑張れた事は、頑張れる場所があったことに皆で感謝して、その後、あんこうの解体ショーを見て、皆で一緒にそのあんこうをいただいた。 そこには、地域の皆さん、校長先生、教頭先生、垂水市の英語教師のリックも来てくださった。とても驚いておられた。 英語、仏語を話せる方々に前に出ただいて、トークショーもし、お互いの国の歌も出て、国際色豊かな時間だった。</p> <p>4. 「除夜会について」 12月31日は、小中高校生20人程、大人まで全部で50人程で新しい年を迎えた。それぞれの皆さん心の中で何か決意されたかもしれない。良い時間だと思う。</p> <p>5. 「浜駅伝大会について」 1月2日柁原の海岸に、こんなに人がいるんだと思うくらいに、たくさん人が集まって、新春のキラキラした海のもとで、地域の人がチームを作り、絆のバトンを渡しあった。教育長も毎年ご出席くださりありがたい。このふるさとがある子供達、大人達は幸せだと思う。</p>

中谷委員	<p>6. 「新成人を祝う会について」</p> <p>1月4日3回目の新成人を祝う会を開いた。新成人、先輩成人入り混ざって、色々な話ができ、飲んで食べての会だが、自分の思い、親への思い、親から子への思いも聞けるので、皆さん楽しみにしている。こういう場所の提供をずっと続けていきたいと思う。</p>
葛迫委員	<p>1. 「第3回和田英作・和田香苗記念絵画コンクール開催について」</p> <p>12月17日開催の青少年のための科学の祭典in垂水、1月5日開催の成人式、第3回和田英作・和田香苗記念絵画コンクール授賞式に参加した。</p> <p>第3回和田英作・和田香苗記念絵画コンクール開催について、12月18日の搬入については、全国から茨城、神奈川、静岡、福井、滋賀、京都、香川、山口、熊本といった府県からの応募があり、充実した搬入であった。しかし、第2回の出品点数を上回ることが出来なかったことが次回への反省点であった。県内にもっとこの展覧会を周知し、もっと魅力ある展覧会を考える必要がある。</p> <p>12月23日の審査については、優秀な作品が全国から出品されたことで、審査員全員が県内のコンクールの中でもトップクラスという評価をいただいた。その中で、垂水市からは2名が入賞した。</p> <p>「井口賞」の前田和江さんは、昨年南日本女流賞で高い評価を得て新人賞受賞され、今回の作品も自分自身の暮らしの中から自分自身を素直に表現した作品を出品した。</p> <p>また、88歳で奨励賞を受賞した川添睦子さん、この方も自分自身の暮らしの中から、増え続ける22名の「ひ孫」の姿を画面いっぱいに描いたことが評価された。聞くところによると、今もまだまだ増え続け、また2、3年後もこの続きを描こうかと元気に話された。</p> <p>1月9日の授賞式は、遠方の方を除いて県内の受賞者、ジュニア部門の入賞者が出席し、賑やかに開催されていた。最高賞の和田英作賞に輝いた鹿屋市の西口純一さんからお礼の言葉があり、描くことへの感謝、今までお世話になった宋野勝文先生への感謝の気持ち、そのことが今の自分の作品として出来上がったと述べられていた。</p> <p>この展覧会は日曜日までですので、よかったですら観てください。</p>
教育長	<p>1. 「第3回和田英作・和田香苗記念絵画コンクール開催について」</p> <p>第3回和田英作・和田香苗記念絵画コンクールの表彰式が1月9日行われた。今回は全体で470点の応募があったが、これまでよりも若干少なかった。それなりに優秀な作品が展覧されて、大変有難く思うことであった。葛迫委員をはじめ審査員の先生方のお力添えで、2つの会場で展示がなされている。</p> <p>瀬戸口藤吉翁、和田英作画伯、和田香苗画伯も含めて本市の偉人の中で瀬戸口藤吉翁の記念コンクールは今年で18回目だったか先行して行われてきているが、和田コンの方は3回目である。15回の差はあるが、和田コンを瀬戸口藤吉翁コンクールなみに、早く充実発展させていかなければと感じた。</p> <p>それから、表彰式の時を事務局の方で検討する際に、幼稚園生が1時間から1時間10分表彰式の間ずっと座ってられるか懸念していたが、親御</p>

さんがいらっしやったのもあるが、最後まできちっと座っていて、いい姿勢でよかったとほっとしたところであった。今後も和田コンに力を入れて、取り組んでいかなければならないと強く感じたところだ。

教育総務課長
学校教育課長
社会教育課長

12月13日から1月12日までの主な行事等について報告。
併せて、2月10日までの行事予定についてお知らせした。

6 閉 会